



## プラン5)

記入日	西暦 2020 年 1 月 10 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	UR 都市機構 (尾山台団地)
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	⑮
タイトル	避難所訓練「避難所シミュレーションゲーム～段ボールハウスをつくろう」
実践担当者のお名前	尾山台団地自治会・自主防災会 青田 敏彦

実践にかかった金額	5000 円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 12 月 21 日 9 時 30 分～12 時
実践の所要時間	2. 5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	地域住民・女性・高齢者・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	埼玉県上尾市
実践を行った具体的な場所	尾山台小学校体育館
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	準備したもの：段ボール、ガムテープ、ペン・カッターナイフ 等文房具、使い捨てカイロ

達成目標	① 指定避難所に避難したことを想定し、目視による避難所内外の安全性の確認や避難者名簿への記載等を体験。 ② 避難所生活を想定して、段ボールで避難区画やベッドを作成。	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	全く 少し かなり <u>大いに</u>
	思考力・判断力・表現力	全く 少し かなり <u>大いに</u>
	学びに向かう力・人間性	全く <u>少し</u> かなり 大いに

**実践内容・方法**

市が主催する指定避難所訓練と合わせて、参加者に段ボールを活用して、避難スペースを作成してもらう。

予め、体育館内にブルーシートを敷き、団地の街区ごとに避難場所を指定。子供連れの家族のため、足の悪いかたも座れるスペース等、思い思いの避難スペースを作成。合わせて、段ボール箱を重ねたベッドを作る。

体育館は寒く、冷たい床の上での避難となるが、自宅は、布団や毛布が揃い、リラックスできる空間であり、在宅避難の有効性を考えてもらう。



**得られた成果**

段ボールの仕切りでは、プライバシーの確保に限界があることが認識できた。また狭い空間に何人もの避難者が肩を寄せ合うより、自宅での避難生活にメリットを感じる方が多かった。一方、独居の方が集まれるような、場づくりも必要と認識した。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	全く 少し <u>かなり</u> 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く 少し <u>かなり</u> <u>大いに</u>
	学びに向かう力・人間性	全く 少し <u>かなり</u> <u>大いに</u>

**課題・苦労・工夫**

段ボールを事前に収集するのが大変だったが、近隣スーパー複数店舗の協力を得て実施することができた。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	



関係者の連絡先	
---------	--

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ 1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください	
伝えたい相手	集合住宅の自主防災会
伝えたい内容	指定避難所は収容人数が限られており、集合住宅住民が避難すると、戸建てが崩壊した方等、本来、避難しなくてはならない方が入れなくなる。避難物資は指定避難所に取りに行くこととして、原則、在宅避難を啓発するために役立つワークショップ。

フォームへのご意見 (1団体あたり1回だけ記入する内容です)

★このフォームは書きやすかったですか？ わかりにくいところ,改善すべき点などあれば教えてください	金額や対象者を選択するところが記入しづらかった。 写真を挿入しようとするとうりページ全体が動いてしまい、作成しづらかった。 た。
---	--